

1. 単元名 引用方法について

2. 本時の概要

本時は、探究活動をより専門的かつ倫理的に進めるための基礎技能として、「引用方法」と「参考文献リストの作成」を習得することを主眼とする。探究活動において、自らの主張を裏付けるために他者の文章や図表、データを用いることは不可欠であるが、出典を明示せずに活用することは、自他の考えの境界を曖昧にし、著作権の侵害や研究不正に繋がる恐れがある。そのため、中学1年生の段階で、原文をそのまま使う「直接引用」と要約して用いる「間接引用」の区別や、図書・Web・新聞といった媒体ごとの出典の書き方を具体的に学ぶことは、学問的な誠実さを養う上で極めて重要である。

3. 本時の目標

- **LIFEログの意義と方法の理解:**「LIFEログ」の意義とルーブリック(レベル3)を理解し、日々の体験から自己の成長や課題を言語化する「成長に繋がる振り返り」を記述できるようになる。
- **引用の意義と手法の理解:**引用の重要性を理解し、直接引用と間接引用の使い分けや、著者名・発行年・ページ数といった出典情報の正しい示し方を、スライドの具体例を参考にしながら習得する。
- **媒体別参考文献リストの作成技能:** 図書、Webページ、新聞記事という異なる情報源から、奥付やトップページ等の情報を正しく読み取り、レポートの最後に付すべき参考文献リストとして整理・記述できるようになる。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:
 - 授業スライド 第11回
- 使用教材(副教材):
 - 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館
- 参考文献:
 - 公益財団法人図書館振興財団『参考・引用文献リストの書き方』
<https://concours.toshokan.or.jp/concours/reference> アクセス年月日2026年7月7日

5. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
5分	本時の内容確認とLIFEログの説明 ・本時の流れ(LIFEログ、引用方法、参考文献リスト)を確認する。	・「今日の振り返りが、明日の自分をつくる」という目的意識を強調する。 ・レベル3の振り返り例を具体的に示し、単なる感想文にならないよう指導する。 ・毎回の積み重ねが重要であることを伝え、意欲を高める。
10分	LIFEログの記入 ・教科学習、探究、学校行事等の各項目について、この1週間の活動を振り返り、端末に入力する。 ・内容を端的に表す「タイトル」を必ずつける。 ・ループリックを意識し、自分の変化や次の目標を含めた記述を行う。	・生徒が記述に迷っている場合は、スライドの例示を参考にさせる。 ・必要に応じて、項目を「複製」して追加できることを伝える。 ・巡回し、レベル2以上の記述ができているか適宜確認・声掛けを行う。
5分	引用方法についての学習 ・引用の定義と「直接引用」「間接引用」の違いを学ぶ。 ・直接引用は「」でくくり、一字一句変えないこと、間接引用は要約することを理解する。 ・図表や写真、統計データにも出典明記が必要であることを知る。	・「少しだけなら大丈夫」という誤った認識を正し、著作権への配慮を促す。 ・スライドの具体例を用いて、カッコ内の著者名や発行年の書き方を視覚的に示す。 ・出典を示さない場合のデメリットを明確に伝える。
5分	参考文献リスト作成方法の学習 ・レポート末尾に付けるリストの役割を理解する。 ・図書の「奥付」、Webページのアクセス年月日、新聞の朝刊・夕刊の区別など、媒体ごとの必須情報を確認する。 ・情報の探し方を具体例から学ぶ。	・Webページは内容が変更されるため、アクセス年月日が必須であることを強調する。 ・図書の「奥付」がどこにあるか、現物や画像を用いて分かりやすく説明する。 ・新聞特有の記録事項(朝・夕刊、ページ等)に注意させる。
15分	各自、探究活動の推進 ・学んだ引用方法や参考文献のメモを意識しながら、自身の探究活動を進める。 ・探究ノート「日々の記録」に、本時の進捗や気づきを記入する。	・巡回指導を行い、資料を活用している生徒には適切な引用ができているか助言する。 ・情報の出典を忘れないよう、その都度メモを取る習慣を促す。 ・個別の疑問や探究の進め方に関する相談に対応する。
【2時限目】		

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
40分	各自、探究活動を進める	・探究ノートの「日々の記録」の記載も促す。
